

心聖会 広報誌

広報こいけ

発行：社会福祉法人 心聖会
 広報委員会
 発行責任者：吉村 優児
 URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)

〒276-0001

千葉県八千代市小池393

TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229

経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。



グループホームや入所施設の入居系の福祉サービス事業所と、地域との関係づくりや、地域にお住まいの皆様に対する、施設や利用者に関する理解の促進等を図ることを目的として、昨年度末に「地域連携推進会議」を開催させていただきました。

この会議の開催は、令和7年度から義務化されました。会議の構成員には、ご利用者や、ご家族、地域の関係者の皆様、福祉や経営に知見のある方、それから市町村の障害福祉担当者等と示されており、各お立場の方々にご参加いただき、大変有意義なご意見やご感想をお伺いすることができました。

参加者の皆様に、施設内の見学もしていただきました。地域の皆様にご利用者の創作活動の様子をご覧いただいたところ、手芸やアート作品の制作、個別ワークといった活動に取り組みられているご利用者のお姿に「へえ、こういうことをされていたんですね」と感心されていたのが印象的でした。このような活動や作品が、地域社会との接点になるきっかけになればと、改めて感じた次第でございます。

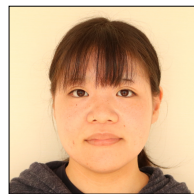
さて、新年度がはじまりました。地域とも連携し、ご利用者の生活が、より豊かなものとなるように努めてまいります。本年度におきましても、どうぞ皆さまよろしくお願いたします。

社会福祉法人心聖会 作山更生園 施設長

西澤 昇太郎

新年度の抱負

小池更生園 片岡千晶



私は今年度、
『ご利用者一人ひとりに寄り添う』
ことを抱負いたします。

小池更生園での主役は、ご利用者の皆様です。日頃からご利用者の声や想いに耳を傾け、ちょっとしたサインでも見逃さないよう努めることで、ここでの生活が「楽しいな」「過ごしやすい」「ここにいたい」と思ってもらえるような支援を目指します。

大切なのは、そうしたご利用者のお気持ちや体調は、日々刻々と変わり続けるということ。ご利用者の変化に合わせて最適な支援を行うためには、チームでの支援が不可欠です。今年度も昨年度に続き、室内第三班の作業班班長を拝命したことを念頭に置き、職員一人一人がご利用者の変化に気を配る、きめ細やかな支援ができるような体制づくりに努めてまいります。

小池更生園 辻美保



昨年度は受注班としてアート活動に力を入れ、ご利用者の新たな一面や可能性に触れる機会に多く恵まれました。ご利用者のできることでできないことを決めつけず、ご利用者の希望や想いに対して率直に関わることで、想像以上の作品や表現が生まれることができました。

制作に携わったご利用者のうれしそうな笑顔をはじめ、普段の生活では知ることができなかったご利用者の新たな技能や欲びを知ることができ、多くの発見と楽しさを感じる一年となりました。こうした経験を大切にしなから、勤続9年目を迎える今年度は、資格取得に向けた学びを深め、より質の高い支援につなげていきたいと考えています。また、これまで培ってきた知識や技術を職員間で共有し、チーム全体で成長できる環境づくりにも取り組んでいきます。

ご利用者の皆様とともに、一歩ずつ前に進んでいく一年にしたいと願っております。

作山更生園 福田政紀



4月を迎えるたびに、私は「初心に帰る」という言葉が胸に刻んできます。昨年、勤続

20年の表彰をいただき、これまで作山更生園と、こいけ障害者支援センターで積み重ねてきた年月を改めて振り返る機会となりました。長く勤める中で仕事に慣れが生まれる一方、初心を忘れずに向き合う姿勢の大切さを強く感じています。今年度、10年ぶりに作山更生園へ異動することになりました。再びこの場所で働けることに自然と身が引き締まる思いです。私が大切にしている「初心に帰る」とは、法人理念である「ご利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そしてそれを支えることを職員の幸せ」として事業に取り組めます」という原点に立ち返ることです。新年度のスタートにあたり、理念を改めて心に刻み、ひとつひとつの支援に誠実に向き合ってください。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

こいけ障害者支援センター

嶋根清人



今年度の抱負は「日々学ぶ」です。平成29年11月の開所当初から支援員として関わらせて

いただき、現在はチームリーダーとして、ご利用者の安心と安全を守りながら、充実した時間を過ごしていただけるよう、チームの力を発揮できる環境づくりに努めています。

支援の現場では、ご利用者一人ひとりの表情や行動に、大切なメッセージが込められていると感じています。日々の関わりを通して、何を求め、どのような支援を必要としているのかを学び続け、小さな変化にも気づける感性をさらに磨いていきたいと考えています。

今年度は初めて担う業務も多く、毎日を学びの機会として精進してまいります。ご利用者とその人らしく輝ける日々を過ごせるよう、誠心誠意サポートに努めます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

小池更生園便り

千葉県知的障害者福祉協会 権利擁護研修のご報告

小池更生園

支援員 伊藤 聡真

千葉県手をつなぐ育成会 「でい・さくさべ」にて行われた研修会に参加いたしました。今回の研修は、勤続年数5年未満の直接支援にあたる職員を対象とし、風通しのよい職場づくりを通じて虐待防止への意識を高めることを目的としています。特筆すべきは、座学は研修冒頭の15分のみで、ほとんどの時間をグループワークとしている点です。雪山で遭難した際に必要なものを10点ほど順位付けする「雪山遭難ゲーム」を初対面のメンバー同士で行いましたが、相手の意見を取り入れることばかりに気をとられてしまった点を反省しています。実際の支援現場では「声を上げる」ことが権利擁護や虐待防止に直結することを忘れないよう、研修での反省点を念頭に置きながら業務に臨んでまいります。

障害者虐待防止

権利擁護研修のご報告

小池更生園

支援員 高橋 大樹

令和7年度障害者虐待防止・権利擁護専門研修に参加致しました。障害者虐待を防止することを目的に、障害者福祉施設等従事者を対象として開催されたオンライン形式の研修です。「職員のメンタルヘルス」という項目で取り上げられた①「見ること」②「聴くこと」③「繋ぐこと」という3つの言葉が印象に残っています。①「見る」とは遅刻や欠勤の増加、会話が少なくなる、ミスや事故が増えるといった違和感を見逃さないこと②「聴くこと」とは安心して話せる場所で時間を取り、否定せず、遮らないで最後までじっくり話を聞くこと、③「繋ぐこと」は、必要に応じて関係各所へ繋ぐといったことを意味し、メンタルヘルス不調者に対しての対処方法になっています。ご利用者とともに同僚や後輩たちの働く様子にも気を配りながら、業務に励んで参ります。

「プロジェクトK」

研究発表を行いました



小池更生園

支援員 鈴木 亮

小池更生園では、ご利用者に対する支援についての知識・技術の向上を目的として「プロジェクトK」と銘打った研究発表を行っています。昨年1年間、その担当者として、あるご利用者の行動障害に対する取り組みを、他の支援員と協力して実施しました。大切にしたのは、①意思決定を中心にする②ストレングスに焦点を当てる③ご利用者・職員ともに過負荷にならない④生活の質を向上させることの4点です。行動障害についての仮説とその検証結果が発表の主軸となりましたが、行動障害の件数が減少したことに加え、普段の生活だけでは気付くことが難しいご利用者の特技や表情を知ることができ、大きな学びとなりました。



使用した発表用スライド

ドキドキわくわく! ときめきチューズデー



小池更生園

支援員 辻 美保

「ときめきチューズデー」とは毎月実施している取り組みで、ご利用者の皆様が複数のメニューの中からお弁当やおやつをご自身で選ぶ、意思決定支援の一環です。日常とは少し異なる「特別な日」として、ご利用者の皆様に楽しまれています。

2月17日はおやつ時間に開催し、バレンタインデーにちなんで「チョコパイ」「濃いチョコパイ」「カスタードケーキ」の3種類をご用意しました。事前にメニューをお見せすると、どれにしようかと悩みながらも目を輝かせるお姿が見受けられ、楽しみにされている様子も印象的でした。

当日はそれぞれが選んだおやつを嬉しそうに味わい、ゆっくと楽しむ方、頬張るように召し上がる方などさまざまありました。ご利用者の皆様にとっ て心に残るひとときとなれば幸いです。



作山更生園便り

作業班紹介①

すずのね班

今回は作業班の紹介をさせていただきます。

すずのね班はグループホームのご利用者の作業班となっております。主な作業としては「ちいき新聞」をメインとして取り組んでいます。ちいき新聞とは、地域密着型の生活情報誌で、フリーペーパーとなっております。ご利用者の皆様には新聞を広げたり、チラシを重ねたりといった折り込み作業とポスティング



をお願ひしています。ちいき新聞社にて新聞を受け取ったご利用者の皆様は、まるで「これから自分の仕事が始まるぞ」といった様子で、新聞を広げたりチラシを重ねたりと、それぞれの作業をしっかりと進められています。また、ポスティングの際には地域住民の方から「ご苦労様」と声をかけていただくなど、地域参加をしている事を実感することもできています。

その他には、リサイクル活動としてアルミ缶の洗浄・仕分け、売却を行なっています。心聖会に設置している自動販売機にて回収した空き缶を分別し、リサ

イクル活動として処理を行っています。

また、地域の作品展等にご利用者が制作した作品の出版を行うといった、創作活動にも力を入れて他、天気の良い日には外歩行として、施設周辺の近隣を歩行しています。雨天の際は運動器具として取り入れている、ペダルバイクを使用している、体機能の維持を図っています。

すずのね班では「うまくいくか試す」「限界を試す」「真偽を試す」「試しにやってみる」といった「試す」ことが楽しいと感じられることを目標に、今後このような活動を継続いたします。



作業班紹介②

男性活動班

男性活動班では、個別課題を中心とした活動を行っています。ご利用者の意思を尊重し、複数ある作業の中からご自身で作業を選ぶことができるよう、視覚的な支援を行っています。また、天気が良い日は歩行活動として、園の近隣を職員と一緒にウォーキングを実施。気分転換や体力維持に向け、屋外での活動も重視しています。生活リズムを整えることを目標に、ご利用者ひとりひとりの活動の充実を図っています。



こいけ障害者
支援センター便り

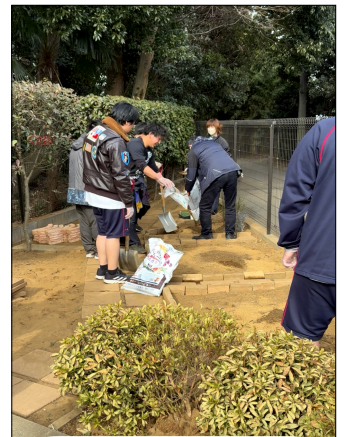
地域の中で

2月初旬、千葉県立船橋豊富高等学校 福祉科の生徒17名が、職場体験に来てくださいました。同校では「地域とともにある学校づくり」を大切にされており、今回の取り組みもその一環として実施されたものです。



畑作業の様子

センターでは、畑作業・地域清掃・雑貨品作り・花壇整備・花壇の柵づくり・アートの7グループに分かれて活動できるように、事前に体験内容を検討しました。ご利用者には楽しい時間を過ごしていただけるように、また学生の皆様には福祉の仕事の雰囲気や魅力を感じてもらえるよう準備を進めました。



花壇整備の様子

当日、学生の皆様は元気に作業へ取り組み、ご利用者と手を取り合う姿や丁寧な挨拶が見られました。普段は集中が長続きしないご利用者が、学生といっしょに1時間も作業に集中する様子も見られ、関わりを持つことの大切さを実感しました。



アート活動の様子

今回の職場体験は、学生と職員双方に多くの学びと発見に満ちた一日となりました。未来の福祉を担う若い世代へ、事業所の姿勢を伝える貴重な時間となり、組織の使命を再確認する機会となりました。

こいけホーム便り

春は曙！お花見日和

3月22日、恒例の「こいけホームお花見会」を開催しました。快晴に恵まれまさにお花見日和、そして三連休最終日ということも重なり、目的地の「柏市あけぼの農業公園」は大賑わいでした。



花畑の前でピース！

お目当ての桜の花はまだほとんどが蕾のままでしたが、一面に植え付けられている草花が色鮮やかに咲き誇り、ご利用者の表情もあつという間に華やいていきました。お花見気分を盛り上げるたくさんのお店もあり、お弁当を食べた後はいくつかのグループに分かれ公園内を散策。お散歩でお花見を存分に楽しむ

方、出店や売店でのお買い物を楽しむ方、それぞれのご希望に応じ、充実した時間を過ごすことができました。距離や時間になると、ほんのちょっとした外出ですが、ご利用者にとってはかけがえのない体験です。大きなイベント以外にも、日々の暮らしのちょっとしたアクセントとして「楽しく、幸せ」な生活のお手伝いを続けていけたら、との思いが再燃した一日となりました。



▲色づいた桜もありました



▲出店もたくさん！

法人だより

うみのもり作品展

1月31日、こいけ障害者支援センターでは、千葉県立美術館で開催された「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱5」へ見



学外出を実施しました。これは、千葉県が主催する、障害のある人たちの文化芸術活動を支援するための展覧会で、障害の有無に関わりなく、文化芸術に親しむための機会が提供されています。今回は「よろこび！」をテーマに表現した

絵画や彫刻、詩など約460点の作品が展示されました。毎年、こいけ障害者支援センターでも、絵画作品や立体作品を中心に、ご利用者が作業活動の一環として制作・出展しています。会場では、ご利用者ひとりひとりの思いが表現された個性光る作品が展示されました。作品の中には触れることができるものもあり、貴重な体験となりました。

手をつなぐ作品展



小池更生園の受注班では、利用者一人ひとりの思いや表現を大切にしたいという思いで取り組んでいます。アート活動に取り組んでいます。昨年度は「手をつなぐ作品展」に4名のご利用者が絵画を出展しました。

テーマは自由とし、絵の具や色鉛筆、クレヨン、折り紙など、それぞれが使用したい素材を選びながら制作に取り組みました。その進め方も様々で、一人で完成まで仕上げる方、職員と相談しながら方向性を決める方、一緒に工程を重ねる方など、それぞれの能力に応じた支援を試みました。会話が難しいご利用者も、ジェスチャーや指差しで思いを伝え、職員と関わりながら楽しく参加する姿が見受けられました。完成時には、達成感に満ちた表情が見られる等、活動の充実が感じられました。

今後も、誰もが安心して表現できる環境を大切にしながら、ひとりひとりの可能性を最大限に引き出し、アート活動に力を入れていきたいと考えています。



みそ加工班のご紹介



小池更生園のみそ加工班では「小池みそ」「ピッコロスターニョコーヒー」の製造、販売をおこなっています。小池みそは、野田市および八千代市産の大豆と、印旛沼周辺地域のブレンド米を使った手づくり無添加味噌で、素材の旨みをそのまま味わえます。ピッコロスターニョコーヒーは、ご利用者とともに焙煎から豆挽き・密封までを丁寧に行った、自家焙煎ドリップパックです。香り豊かで、地域の恵みと手仕事の温もりが詰まった自慢の品となっています。バザーやイベント等での販売も行っております。是非、ご賞味ください。

異動職員のお知らせ

《作山更生園》
・福田 政紀(前・こいけ障害者支援センター)

《こいけ障害者支援センター》
・高橋 大樹(前・小池更生園)

《こいけホーム》
・稲付 裕貴(前・こいけ障害者支援センター)

編集後記

〜新しい季節 変わらない想い〜

窓の外を流れる風が柔らかくなり、施設周辺の桜も鮮やかに色づき始めました。新年度の幕開けです。皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、新しく加わった職員たちが活躍する写真を表紙に据え、新年度の抱負を特集しました。取材を通して感じたのは、環境の変化への期待と身の引き締まる緊張です。これはご利用者の皆さまも同じかもしれません。慣れない新体制に戸惑う姿が見られる一方、ふとした瞬間に見せてくださる明るい笑顔に、私たちはいつも元気をいただいています。

広報委員会は今年度も、現場の「温度」をそのまま伝える誌面づくりを目指します。言葉にしづらい小さな変化や、日々の支援に宿る温かな物語を丁寧に取り上げていきます。これからも、心聖会が皆様にとって安心できる場所であり続けるよう、広報として尽力してまいります。一年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。